

日本NGO連携無償資金協力申請書

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	ミンダナオ島ジェネラルサントス市バランガイサンホセに住む先住民族の子どもたちの教育環境及び生活環境が向上すること。
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(ア) フィリピン共和国における開発ニーズ</p> <p>フィリピン政府は「フィリピン開発計画 2011-2016」を策定し、この中で「社会開発」や「ミンダナオの平和」を優先事項の1つとして掲げている。一方、日本政府も2012年策定の「対フィリピン国別援助方針」において、「ミンダナオにおける平和と開発」を重点課題に掲げ、「NGOとの実施面での連携」の方針が謳われている。</p> <p>(イ) 国レベルでの当事業の必要性</p> <p>ミンダナオ島には、豊かな自然資源や文化があるにも関わらず、現在まで続く不安定な政治状況や農村地域の社会投資の欠如により、人々や地域の可能性は妨げられ、同国において貧困率、地域総生産(GDP)、またその保健・医療環境、基礎的インフラ、教育インフラの全てにおいて同国の最低水準となってきた。特に農村地域に住む「先住民族」の生活環境は劣悪で、フィリピン政府は「保護されるべき社会的弱者」の1つとして「先住民」を指定している。</p> <p>(ウ) 町・村レベルでの当事業の必要性</p> <p>ミンダナオ島南部に住む先住民ブラアンやティボリは数千年前から現在のジェネラルサントス市一帯で狩猟採集を基盤とする生活を送っていた。しかし1930年代にフィリピン政府がルソンやビサヤ地方からの入植を推奨したことや、1960年代以降の多国籍企業の進出によって、先住民族の多くは次第に高地へ追いやられた。このような先住民族が多く住む地域の1つが、面積約6,800ヘクタール、人口約8,800人、22の地区から成るサンホセ村である。</p> <p>同村の子どもたちは、片道2時間以上かけて通学を余儀なくされる子どもたちも多く、また学校に着いても校舎や教材不足、町から来る教師の差別的な対応等により、通学を断念する子どもたちも少なくなかった。そして本来(先住民の)子どもたちの参加を促すはずの児童会も、役員の名前があるだけでほとんど機能していない状況があった。子どもたちが住む地域において、診療所は、広大な村の中に1つしかなく、疾患に対して適切な対応がなされていないため、子どもたちが命を落としてしまう現状があった。地域には産業がなく、人々は炭焼きや商品作物の栽培・販売等の不安定かつ低賃金の収入しか見込めない上、以前盛んであった伝統工芸もすたれてしまっていた。</p> <p>(エ) フェーズ1の進歩</p> <p>現在実施中の3年計画1年目のフェーズ1では、349名の児童に対して、竹小屋が2つあっただけで、正式な校舎が1つもなかった同村のシャトル小学校において2教室が9月に完成し、期待されていた成果である80名以上の教育環境の改善が達成された。本事業を通じて、地域の子どもの通学意欲が向上し、児童数は395名に増加するとともに、教育省内でも同地域での教育の重要性が見直され、教育省予算による追加教室の建設や教師2名の追加等の波及効</p>

	<p>果も出ている。また 9 校の児童会の強化や教師への先住民に対する理解促進の研修も予定通り順調に行われており、先住民の子どもに優しい学校づくりに向かって、着実に進んでいる。</p> <p>地域での活動でも予定通り 30 名以上の保健師の育成研修が行われ、また、先住民の伝統に基づく織物等の研修も順調に進んでいる。</p> <p>(オ) フェーズ 2 と 3 の必要性</p> <p><学校での教育環境について></p> <p>本事業によって、教育の重要性が地域内で認識されてきた同村だが、向上する就学者数に対して依然として校舎や教室備品が不足している。中でも急激に児童が増加し、教室が圧倒的に足りていないのが、ピアオ小学校である。この学校では現在、幼稚園から 5 年生の 6 学年の生徒 294 名が学んでいるが、全 6 教室のうち、鉄筋コンクリートの教室は 2 教室しかなく、別の 2 つの学年は雨風が入る竹小屋で学んでおり、またこの他に教育省基準に満たない古いコンクリート製の教室が 2 教室あるが、その中で、4 年生と 5 年生は、1 つの教室の中で同時に学ばざるを得ない状況に置かれている。現在、児童対校舎比は、54 平米の教室において教育省の基準に満たない校舎を含んでも児童 74 人に対して 1 教室しかなく、児童増加数に見合う校舎、そして机や椅子等の備品の不足が生じている。またこのピアオ小学校やフェーズ 1 で建設したシャトル小学校等、同村にある全 9 小学校を卒業した子どもたちは、中学校への進学が期待されているが、地域によっては中学校まで徒歩で片道 3 時間ほどかかる等、進学が困難な状況に置かれており、より近隣の地域に中学校が必要とされている。</p> <p>フェーズ 1 の活動を通じて、児童会の重要性と先住民の子どもが置かれている状況の厳しさへの認識が学校内で浸透してきている。次年度以降、児童会自身が村の子どもたちの調査を行い、未就学児童を見つけ、通学させるといった形で活動を拡大させるとともに、年度が変わっても同じ機能を維持できるように制度化することが期待されている。教員の先住民族の子どもへの接し方についても、フェーズ 1 の研修の成果を一過性のものでなく、ガイドラインという形で制度化し、定着させていくことが望まれている。</p> <p><地域での生活環境について></p> <p>フェーズ 1 における保健研修や生計向上研修の参加者は、この期間に基礎的な技術の習得が終了する。今後保健研修の参加者が、実際に地域保健の担い手となり、活躍する環境を作っていくことが求められている。また、生計向上の活動においても、クラフトの技術習得のみならず、その販売につながるマーケティング研修や、会計など組織運営の技術の獲得等を通じて、参加者の増加や組織化を進め、持続的に生計向上に取り組んでいくことが期待されている。</p>
(3) 事業内容	<p>1) 「先住民の子どもに優しい学校」づくり</p> <p>(ア) 教育施設整備活動</p> <p>【フェーズ 2】ピアオ小学校 2 教室の建設と備品整備 (椅子と机計 100 個、教壇 2 つ、黒板 2 つ)</p> <p>【フェーズ 3】サンホセの中学校 2 教室の建設と備品整備 (椅子と机計 100 個、教壇 2 つ、黒板 2 つ)</p> <p>(イ) 児童会の強化活動</p>

9 校において、先住民の児童を代表し、行事を実施したり、児童の意見を学校運営に反映させる児童会をつくりあげるために、児童会を運営マニュアルハンドブック作成（児童会の役割、規則、活動内容、運営方法、注意事項、自民族について理解を促進する活動等）の研修を行う。

【フェーズ 2】フェーズ 1 の経験をもとに、「先住民の文化に適した児童会運営ハンドブック（試用版）」を子どもたちとともに作製し、実践していく。

—研修、調査、演劇発表：9 校の児童会役員等約 45 名×7 回

【フェーズ 3】子どもたちがハンドブックをもとに児童会を運営することを補佐し、実用体験をもとに、「ハンドブック（最終版）」を作成する。

—研修、調査、演劇発表：9 校の児童会役員等約 45 名×7 回

(ウ) 教員の強化活動

9 校において先住民の子どもたちに適した教育が教員によって持続的に行われるように、ハンドブック作製の研修を行う。このハンドブックには、先住民の子どもたちを教える教師たちの指針、先住民についての理解を促進し、先住民の子どもを教える際に注意すべき点、知っておくべき点などが盛り込まれる。

【フェーズ 2】教員とともに「先住民の子ども向けの教育ガイドライン（試用版）」を作成するとともに、先住民に優しい視覚教材作成のための研修を実施する。—研修：9 校の教員約 50 名×8 回

【フェーズ 3】ガイドライン（試用版）の実践を行うとともに、その経験と他先住民地域の教員からのフィードバックをもとに、ハンドブック（最終版）を作成する。

—研修：9 校の教員約 50 名×8 回

2) 「先住民が文化に根差して持続的に生きていける地域」づくり

(エ) 保健環境向上活動※CHV（コミュニティヘルスボランティア）：地域保健員

診療所がない地域において、近所の人々が病気やケガの際に駆け込むことができる約 30 の「家タイプヘルスポスト」（CHV の自宅を利用した保健施設）が日常の疾患に対して適切に対応し、持続的に地域の保健環境を向上させていくために、更なる保健についての知識向上の研修とヘルスポストの設立研修を行う。

【フェーズ 2】フェーズ 1 の受講者を中心に、対象地域を増加させるとともに、更なる保健能力向上の研修を行う。診療所がない地域に、研修修了生による「家タイプヘルスポスト」を設立する。

—研修：CHV 約 30 名×9 回

【フェーズ 3】「家タイプヘルスポスト」を設立した CHV の能力向上研修に加え、修了生によって作られた組織の強化を行う。

—研修：CHV 約 30 名×9 回

(オ) 生計環境向上活動

先住民伝統文化の再評価と生計向上を目的とした「生計向上グループ」が持続的に生計向上に取り組んでいくために、技術向上と組織化の研修を実施する。生計向上グループは、技術訓練に参加した人を中心に作られる組織で、効率よく生産、販売、マーケティングを行うための約 40 名による組織。

【フェーズ 2】フェーズ 1 の受講者を中心とし、対象地域を拡大し、

	<p>クラフトの品質向上や販売、会計に関する研修を実施するとともに、研修参加者による「生計向上グループ」を設立する。</p> <p>一研修：住民 40 名×14 回</p> <p>※追加受講者は、経済状況と意欲、能力を考慮し、選定する。</p> <p>【フェーズ 3】「生計向上グループ」の更なる生産及びマーケティング力の向上研修と組織強化を行う。一研修：住民 40 名×14 回</p> <p>中長期計画</p> <p>当事業は、3 年計画の 2 年目と 3 年目に該当する。教育面では 3 年をかけて、先住民が多く住むバランガイサンホセの学校校舎を整備するとともに、児童会や教員の強化を行う。地域での生活面については、保健と生計向上の分野で子どもたちを取り巻く環境を改善する。これによって 3 年間で上位目標を達成する。</p> <p>当事業は、地域のニーズや両国政府の中長期的方針に合致し、ミレニアム開発目標(MDGs)「初等教育の完全普及」「生産的かつ適切な雇用」「乳幼児死亡率削減」「妊産婦の健康の改善」に寄与する。</p>
(4) 持続発展性	<p>校舎の維持管理は、管轄である同市教育省が行う。これに対し、予算措置、生徒数増加に見合った教師増員を含む維持・管理について正式に文書を交わす。児童会・教師強化研修や保健・生計向上研修は事業期間の 3 年で活動を終了するが、活動は能力強化が主であるため、その効果は各組織を通じて、事業終了後も継続が期待できる。当法人が、事業終了後最低 5 年間はモニタリングを行う。</p>
(5) 期待される成果と成果を測る指標	<p>既にフェーズ 1 が契機となり、事業地では、行政や企業の社会貢献活動において、学校建設が行われる等の波及効果が出ている。本 2 年間の事業においても、以下の成果を上げるとともに、行政や企業等と連携し、本事業の活動の効果をより高める。</p> <p>成果 1：先住民が多く住むサンホセ村の教育環境が改善している。</p> <p>成果 1-1</p> <p><u>指標 1-1</u>：2014 年 3 月までに、同村 100 名の初等教育児童が、雨風の入らない鉄筋コンクリートの教室で学ぶことができている。</p> <p><u>指標 1-2</u>：2015 年 3 月までに、同村 200 名の初等教育児童・生徒が、雨風の入らない鉄筋コンクリートの教室で学ぶことができている。</p> <p><u>指標 2-1</u>：2014 年 3 月までに、「先住民の文化に適した児童会運営ハンドブック（試用版）」が校内で共有されている。</p> <p><u>指標 2-2</u>：2015 年 3 月までに、「先住民の文化に適した児童会運営ハンドブック（最終版）」が作成され、活用されている。</p> <p><u>指標 3-1</u>：2014 年 3 月までに、「先住民の子ども向けの教育ガイドライン（試用版）」が校内で共有されている。</p> <p><u>指標 3-2</u>：2015 年 3 月までに、「先住民の子ども向けの教育ガイドライン」が教師によって作成され、活用されている。</p> <p>成果 2：先住民が多く住むサンホセ村の人々の生活が向上している。</p> <p><u>指標 4-1</u>：2014 年 3 月までに、「家タイプヘルスポスト」が設立され、病気になった村人に活用されている。</p> <p><u>指標 4-2</u>：2015 年 3 月までに、地域住民のサンプル調査で、「家タイプヘルスポスト」の利用者の 60%以上が内容に満足している。</p> <p><u>指標 5-1</u>：2014 年 3 月までに、研修受講者対象調査で、品質向上や販売に対する知識が研修前より増加している。</p>

	<p>指標 5-2 : 2015 年 3 月までに、研修受講者対象調査で、マーケティングに対する知識が研修前より増加している。</p>
--	---